

みんなが幸せになるための農業・食・生き方

「一番大切なものは「土の微生物」

第8回日本の農業と食を考えるシンポジウム

由井代表の基調講演など

誰れでも参加可能 6月9日、京都で開催



由井寅子代表

2012年から開催している「日本の農業と食を考えるシンポジウム」。今回で8回目を数える。6月9日午前10時から京都リサーチパーク・バスホール西地区4号館B1Fにおいて「みんなが幸せになるための農業・食・生き方」をテーマに開催される。主催は日本豊受自然農(由井寅子代表)。

シンポジウムの大会長を務める日本豊受自然農(株)の由井寅子代表は5月4日に開催された新元号「令和」を祝う記念講演で「近年日本では、アトピーや潰瘍性大腸炎、あるいは電磁波・化学物質過敏症、食物アレルギー

の方も急増して、何も食べられないという人たちがどうしたらいいのかと悩みまして、これはもう私が、農業・化学肥料を使わない農業や添加物を使わない加工品を作るし

に何百億という微生物がいっぱい生きています。たとえば、根粒菌が植物の根と一緒に生きて、私たちの腸が吸収できるようなミネラルの形にしてくれています。ミネラル豊富な作物ができるのも、その微生物のおかげです。微生物にはもう一つ大切な役割があります。それは、自然環境を汚すのを防ぐことです。土の中にいる微生物は、腐敗菌や病原菌を食べて、自然環境をきれいに保っています。

「豊受古菌(土壌菌コンプレックス)」と伝統的な落ち葉堆肥や発酵、ハーブ、ホメオパシー農業技術などを組み合わせ、自然型農業を可能にするオリジナルな「土づく

り」の取り組み。オーガニック(農業・化学肥料一切不使用)と在来種・固定種、自家採種などの自然なタネへのこだわり、また健康によく、栄養ある自然な品種の栽培へのこだわり、例

えば、人工交配していない唯一の流通米で健康米として注目される朝日米の栽培、食物アレルギーを起す小麦の品種改良を含まない小麦の品種改良、林61号栽培、ビタミン、ミネラルなどを豊富に含む健康米につながる品種を中心に100種類以上の農作物と、健康によいとされる70種類以上のハーブを栽培

・化粧品も自然型に！自然農の畑の野菜やハーブを原材料にした化学合成材料無添加の自社自然化粧品づくり

・伝統和食の復興と健康スーパードの創造をめざし、自社自然農場の農作物を生かした加工食品の開発製造。自然醸造の木桶での醤油や味噌づくり、自社栽培の大豆福

の時に、農業がまず第一に大切だと思いましたが、中でも一番大切なのは何だろうと考えての結果「土の微生物」でした。この一握りの土の中に

昔工場が環境を汚していたことが、今は、農家が環境を汚している現実もあります。また、そこに出来た物で満足する心、より多くの物を取りたいという欲をかかないと言ふ事も自然を大事にするためには大切なことだと思えます。

地球の未来を思うのなら人類のことだけではない、地球全体の健康を切り替えたから、つまり国を挙げてオーガニックに取り組んでいると。先日東南アジア何カ国が回ってきたときに、要するに私のような技術を持っていく人間に求められるの千

年継続可能な農業にしたいと。つまり千年継続させるためには化学肥料や化学肥料を使っているようでは農業は継続でき

ないといささかという事が起きたときに食料が間に合わない。供給が間に合わないという事態が明らかになってくるので、それはもう3年先とか5年先とかという長いスパンではなく、もう来年とか本当にもう目の前に迫っている危機だと言う事を認識する必要がある

・川や海の水環境の汚さなし、洗濯洗剤や台所用洗剤の開発・販売、鹿、イノシシへの獣害対策推進と自社食品加工と豊受野菜と鹿肉入りペットフード開発推進

・日本豊受自然農設立による林産資源を活用した商品開発の推進(食物の新芽を原材料に使った東欧などで自然療法として

く、生きとし生けるものすべてを大事にしたいことが必要です。そのためには、自然型農業に戻らなければならないと思います。これから生きていく未来の子供達のためには、私たちがよりよい自然環境を残していくための自然型農業の大切が伝わること心から願っています。今回のシンポジウムでは、日本豊受自然農の自然型農業の特長を生かした六次産業化への取り組みが由井代表の基調講演、豊受自然農のスタッフリレーで発表する予定

・「豊受古菌(土壌菌コンプレックス)」と伝統的な落ち葉堆肥や発酵、ハーブ、ホメオパシー農業技術などを組み合わせ、自然型農業を可能にするオリジナルな「土づく

り」の取り組み。オーガニック(農業・化学肥料一切不使用)と在来種・固定種、自家採種などの自然なタネへのこだわり、また健康によく、栄養ある自然な品種の栽培へのこだわり、例

えば、人工交配していない唯一の流通米で健康米として注目される朝日米の栽培、食物アレルギーを起す小麦の品種改良を含まない小麦の品種改良、林61号栽培、ビタミン、ミネラルなどを豊富に含む健康米につながる品種を中心に100種類以上の農作物と、健康によいとされる70種類以上のハーブを栽培

・化粧品も自然型に！自然農の畑の野菜やハーブを原材料にした化学合成材料無添加の自社自然化粧品づくり

・伝統和食の復興と健康スーパードの創造をめざし、自社自然農場の農作物を生かした加工食品の開発製造。自然醸造の木桶での醤油や味噌づくり、自社栽培の大豆福

のみの豆腐づくり、自社栽培のハーブでの補酵素ジュース、ハーブ食物酢づくり、甘酒、酒粕、豆乳、ヨーグルトなどを組み合わせたスーパードづくり。レトルト、瞬間冷凍、乾燥などの技術を使った保存食づくり。農作物の栄養素のパウダー化と組み合わせた健康麺づくり、自然栽培のミカンの皮と有機ココアでの健康お菓子づくり、竹粉末の食品への応用、麻の実の健康オイル輸入販売、ビーフレッド(ミツバチの花粉発酵生成物)の販売など、ハーブ健康酒、日本の花を原材料にしたフラワーエッセンスの開発も行う

・川や海の水環境の汚さなし、洗濯洗剤や台所用洗剤の開発・販売、鹿、イノシシへの獣害対策推進と自社食品加工と豊受野菜と鹿肉入りペットフード開発推進

・日本豊受自然農設立による林産資源を活用した商品開発の推進(食物の新芽を原材料に使った東欧などで自然療法として

・日本豊受自然農の自然型農業の特長を生かした六次産業化への取り組みが由井代表の基調講演、豊受自然農のスタッフリレーで発表する予定

・「豊受古菌(土壌菌コンプレックス)」と伝統的な落ち葉堆肥や発酵、ハーブ、ホメオパシー農業技術などを組み合わせ、自然型農業を可能にするオリジナルな「土づく

り」の取り組み。オーガニック(農業・化学肥料一切不使用)と在来種・固定種、自家採種などの自然なタネへのこだわり、また健康によく、栄養ある自然な品種の栽培へのこだわり、例



昨年の京都でのシンポジウム



野々川氏

日本の農業を語るときに、お隣の中国をなすは語れない状況になって

に、お隣の中国をなすは語れない状況になって

に、お隣の中国をなすは語れない状況になって

に、お隣の中国をなすは語れない状況になって

に、お隣の中国をなすは語れない状況になって

に、お隣の中国をなすは語れない状況になって

に、お隣の中国をなすは語れない状況になって

に、お隣の中国をなすは語れない状況になって